

＜アンケート調査における主な意見＞

(ご意見、ご感想より)

- よく、マスコミの報道などで「野生動物が里に出てくるのは、人間が動物のすむ環境を破壊し、食べ物を奪ったからだ。かわいそうだ。」などと言われますが、実際には豊かな森林、動物の食べ物(本来の)があるにもかかわらず、おいしいものを楽しんで得ることを覚えた動物たちが里に出没しているのだと分かりました。正しい情報や最新の調査、研究成果をより多くの一般の人にわかり易く伝えることが必要だと考えます。
- 年に一度のシンポジウムだけでは一般市民に伝わらない。センターが独自に出版物を出して、公共図書館に発行するべきだ。美術解剖学の資料も必要だ。
- シカはほかの獣種と違い、森林生態系に悪影響を与えるため、防護と駆除を組み合わせる必要がありますが、下層植生の劣化に一般の方は思いが至らないようなので、是非、来年はシカの特集をやってください(岡山県では無理なので)。来年はクマが大量出没すると予想されるのでクマになるかもしれません。
- プロジェクター、PC等で画像と相まっての説明だったので分かりやすかった。また実際に現地踏査された成果の発表だったので説得力があった。次回があればぜひ参加したい。
- 三宮以西の会場でやっていただけたら、ありがたい。六甲山イノシシの話と農村部の話は分けてもいいように思った。
- 配布資料の中にあった学校の出前講座を各庁舎や公民館等で大人向けのものをしていただいたりできないでしょうか?興味のない人にも気軽に参加できるような形で紹介できる場があれば…と思います。今日のシンポジウムの参加人数から見ても、需要があると感じます。

(次回取り上げてほしい内容)

- 捕獲の担い手をいかに確保育成するのか?
- 身近な野生動物とその動物との接触による、人獣共通感染症について、その対策
- 実践的な捕獲について
- バッファゾーンに牛やヤギ、ヒツジを放牧すると効果が高いと言われていますが、効果に差があるのか、県内の事例がある?
- ドイツの事例～オオカミの導入は可能か?
- 獣害獣の有効利用(加工食品の仕方等)の講習

(各話題に対するコメント)

1. 藤木研究員

- 地図で示すことで時間経過や課題、対策の実効性が分かりやすかった。
- 私が肌で感じている野生動物の増加を分析してあり面白かった
- 出没の背景になっている4要因がどの程度影響しているか、獣種ごとに影響の大きさが分かればよかったです

2. 横山研究員

- イノシシのみならず、都市部に出没するカラス、サル等にも共通する内容であった。
- カメラ映像が面白かった。六甲のイノシシのたくましさがよくわかった。六甲山の今昔も Good!
- 動画や写真が良かった。スライドもかわいくて見やすかった。

3. 鈴木研究員

- 県内800頭しかいないって本当?増加しているのか少なくなっているのか?
- サルは実害が全くないのですが、大変参考になった、臨場感があった。
- 頭数の増加と被害の増加が比例しているわけではないことが驚き。対策が大変。

4. 安井専門員

- 事業推進には専門知識を有する者、リーダーが必須であると改めて感じた。
- 京都市北部で獣害対策に取り組む大学院生です。ぜひもう少し詳しくお話聞きたかったです。
- 対策地区の実際の成功例があることで希望がもてると感じた。

5. パネルディスカッション

- 他の参加者の方々の興味の内容が、質問事項からわかり、面白かったです。
- まとめがうまく大変よかったです
- 質問への回答であれば、もっと時間があっても良いのかな